

春の七草



昔から春の草花の代表として、セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロが取り上げられ、食べると元気になる薬草(野草)として選ばれたようです。

1月7日にこの七草をおかゆに入れて食べる習慣があります。



セリ

浅い水の中や湿地(しっち)に生えています。春早く、生き残った去年の株から新芽をのばし、どんどん新しい葉をのばします。6月～8月ごろ、茎の先に白い小さな花をかためてつけます。



ナズナ

春にまだイネが植えられていない田んぼや畑の近くに生えています。白い花が咲いたあと、三角形の小さな種のさやが並びます。このさやが三味線のバチに似ていることからペンペン草とも呼ばれています。



ゴギョウ

ハハコグサのことで、野原や道ばたによく生えています。葉や茎は細かい毛におおわれていて、4月～6月ごろにふさのようにかたまつた黄色の花をつけます。



ハコベラ

ハコベの仲間のことで、ハコベ、コハコベ、ウシハコベなどあります。ウシハコベは葉が大きく、ハコベとコハコベは小さくて、地面をおおように広がります。小さな白い花をつけます。



ホトケノザ

コオニタビラコのことで、葉はタンポポの葉のように広がり、仏様の座る所という意味です。田んぼやちょっとしめり気のある野原などで、黄色の花を咲かせます。

スズナ (カブラ)

スズシロ (ダイコン)

ならやまでは畑で作っています。



これもホトケノザと言いますが、春の七草ではありません。食べられません。

秋の七草

昔から秋の草花の代表として、ハギ、オバナ、オミナエシ、ナデシコ、クズ、フジバカマ、アサガオが取り上げられていました。見た目に美しい花を秋の七草として選んだようです。



ハギ

草のように見えますが木の仲間で高さが1mくらいになり、林や低い山の中に生えています。

秋になると、花の枝がのび、ピンク色のチョウの形をした花をつけます。



オミナエシ

高さが1mぐらいになり、夏から秋に黄色の細かい花がいっぱいつきます。



フジバカマ

背が高く1m以上になります。9月ごろ、うすい赤紫色の花をかたまって咲かせます。

ヒヨドリバナは似ていますが、花は白いです。



オバナ

ススキのことです。空き地や道ばたの日当たりのよい所に生えています。

葉をちぎろうとすると、自分の手が切れます。

秋になると長い白い穂がのび、風にゆらゆらゆれています。



ナデシコ

50cmくらいになり、7～8月に花びらの先がわかれたピンク色の花をつけます。



クズ

大きな3枚の葉をつぎつぎに広げ、つるをのぼしてまわりの草や木の上へのぼっていきます。下じきになった草や木は、陽が当たらなくなり弱ってしまいます。9月ごろ、塔(とう)のような三角形の赤紫色の花をつけます。



アサガオ

キキョウのことです。昔はアサガオと言っていました。

山の日当たりのよい所に生えます。